

「未来の居場所づくり」

シンポジウム

誰にとっても、安心して過ごせる場所や、
自らの役割を感じられる機会があることが、
生きていくための基盤になります。
(厚生労働大臣メッセージより)

「自分が安心して行ける場所、
そのまま受け入れられる居場所が欲しい」
という本人、家族の声が多数
(KHJ 調査 2018 より)

参加費
無料

「居場所」とは、地域社会の中に、本人及び家族が安心して出掛けられ、受け入れられる「場」である。似たような体験を持つ人同士の安心感と共感性を大切に仲間との出会いを通して、他者との関係づくり、意欲の回復や自信を取り戻すための場である。しかし、既存の居場所支援においては、年齢制限や制度の壁があり、外には出られたものの、地域で安心して出ていける場が見つからないという本人の声は少なくない。出ていける場がないから、ひきこもらざるをえないという現状もある。

「居場所」は、ひきこもっている本人や家族にとって、どんな意味があるのか。ひきこもり支援全体から「居場所づくり」とは、どういう意味や意義を持っているか。また実際に、居場所づくり、運営は、どのように行ったらいいのか。配慮すべき大切な点は何なのか。身近な地域で安心して出かけられる「居場所づくり」のために何から始めたらいいか。全国的に、居場所開設へのすそ野を広げるべく、本年度の調査報告から現場の実践者、当事者と共に、居場所のあり方、その実践方法を考えます。

生きる基盤となる居場所づくりに必要なもの

自治体の方、ひきこもりの居場所づくりに関心のある方、ぜひお越しください。【定員：180名】

日時 **2/21** (金) 14:00-19:00 (受付開始 13:30)

会場 **IKE・Biz としま産業振興プラザ・多目的ホール**
〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-37-4 (池袋駅西口より徒歩約10分)

申込方法

KHJホームページ

KHJ ひきこもり

検索

FAXでお申し込み 03-6369-3101

- ①お名前とフリガナ
- ②お立場 (行政、支援者、家族、本人、一般)
- ③電話番号かメールアドレス
- ④お住いの都道府県
- ⑤ご所属 (任意) …をお書き添えください。

「未来の居場所づくり」シンポジウム・東京

14:00 開会行事

開会宣言 (KHJ 共同代表) 来賓挨拶 (国会議員) 内閣官房 (就職氷河期世代支援推進室)

14:15 基調報告

「当事者本人、家族が求める居場所とその効果について」(宮崎大学教育学部准教授 境 泉洋)

14:45 社協の取り組み

「社協が未来の居場所づくりに果たす役割」(全国社会福祉協議会 地域福祉部長 高橋 良太)

15:00 行政説明

「ひきこもり支援施策における居場所」(厚生労働省社会・援護局地域福祉課 課長補佐 安西 慶高)

15:30 シンポジウム第一部

「多様な居場所づくりと地域づくり～地域共生・家族会協働の居場所づくり」(座長: 境 泉洋)

「ひとりひとりのニーズに寄り添う顔の見えるネットワーク」

和田 修 (北九州市ひきこもり地域支援センター・センター長)

不登校のための飲み会を定期的に開いたことがきっかけで、2009年より料理を作りながら集うフリースペース「かふえバロン」を開き活動中。2017年より趣味を「ゼロから始める講座」、2018年より40代限定の飲み会「ばあーバロン」を開催。

「福祉制度を柔軟に利用した居場所の実践」

佐藤 祐治 (NPO 法人から・ころセンター総括若者自立支援員)

山形県米沢市にある「から・ころセンター」で、ひきこもりの居場所を担当。利用者の要望に耳を傾け、障害の有無に関わらずどんな人でも安心して過ごせる居場所を目指して運営。その他、相談業務と就労支援活動などを行っている。

「住民主体の居場所づくり～地域や家族と共に～」

後藤 将来 (中野区社会福祉協議会)

2009年に入職。2015年より福祉何でも相談担当者。2017年より当事者団体の協力を得て区内有志の方とひきこもり者や家族を対象に同じ境遇の方と語り合う居場所「カタルーベの会」を立ち上げ共催。地域家族会の発足にも携わる。

「様々な立場の人が集う居場所の実践」

市川 乙允 (おとちか) (NPO法人楽の会リーラ事務局長)

2001年楽の会リーラ (KHJ 東京支部) を発足。2013年より誰もが安心できる居場所となるコミュニティカフェ葵鳥 (あおどり) を開設。2015年より北区にて地域で孤立しないために住民同士がふれあうサロンを地域家族会と共に開いている。

17:00 シンポジウム第二部

「なぜ人が集まるのか？居場所づくりを当事者主体の目線から考える」(座長: 池上 正樹)

泉 翔 (NPO 法人ウィークタイ代表理事)

1987年生。大学在学中にひきこもり 8年かけて卒業。ハラスメント被害や各種の依存症を経て、現在は精神科通院中の主婦。2014年から大阪にあるウィークタイの代表理事。「今は“生きづらさ”に依存しています。」

田中 敦

(NPO 法人レターポストフレンド相談ネットワーク理事長)

1999年不登校ひきこもり経験から当 NPO を創設。設立当初から手紙を活用したピア・アウトリーチ活動を展開。2007年から当事者会 SANGO の会を運営。2018年札幌市の委託を受けひきこもりに関する集団型支援拠点設置運営業務を担う。

Toshi (ひきこもり当事者・経験者)

当事者団体「ひき桜」の運営スタッフとして、居場所およびピアサポート学習会に関わる。その他「ひきこもりフューチャーセッション庵」、「ひきボス」の運営を行っている。

林 恭子 (一般社団法人ひきこもり UX 会議代表理事)

高校2年で不登校、20代半ばでひきこもりを経験。所属する UX 会議では、UX 女子会の全国展開、居場所づくりのノウハウを伝える UXCAMP の開催を手がける。様々な立場の人が集う「新ひきこもりについて考える会」世話人。

ぼそっと池井多 (VOSOT (チームぼそっと) 代表理事)

30年以上にわたる断続的ひきこもり当事者。中高年ひきこもりたちの情報交換の場「ひ老会」を主宰する一方、「ひきこもり親子公開対論」を開催、GHO (世界ひきこもり機構) 世話人。VOSOT、HIKIPOS など当事者発信を手がける。

19:00 閉会

閉会後は、フリータイムとなります。
会場内で歓談をお楽しみください。
(20時まで)



〈お問い合わせ〉 特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 (本部事務局)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12-301 TEL: 03-5944-5250 info@khj-h.com https://www.khj-h.com/